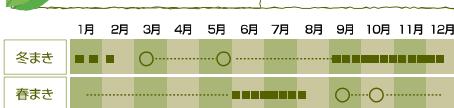




上手な野菜の育て方 ゴボウ



1 栽培時期



○種まき ■収穫

2 栽培上の注意点・生育のコツ

温暖な気候を好み、生育適温は20~25℃。夏の暑さに耐えて生育し、地上部は3℃以下になると枯れるが、根は厳寒期を通っても枯れることはあります。耕土が深く、排水の良いところを好むので、畑を選び深く耕してから栽培してください。土層が深いことが条件で、連作を嫌うので4~5年の輪作をしてください。ゴボウは収穫時に掘り上げるのが大変な作業になりますが、土中に未分解の堆肥の塊などがあると根になるので、畑の準備は早めに行ってください。種は好光性のため浅くまき発芽まで時間がかかり、初期生育も遅いので、雑草に負けないようこまめな除草が重要になります。

3 病害虫防除

病気では、黒斑細菌病があります。
運作や窒素過多を避けて防除を行ってください。

黒斑細菌病 カスミンボルダー 1000倍、収穫14日前まで、3回以内

3 敵づくり・本田肥料

よいゴボウを作るためには、耕土が80cm以上(長根)、50cm以上(短根)の深さが必要で、冬期に天地返しをして土づくりをしましょう。敵幅は60cm程度で、地下水の高い畑や耕土の浅い畑は高畠にする。基肥は3.3m²(1坪)当たり、牛糞堆肥を5kg、苦土セルカ2号400g、野菜専用化成250 300gを施してよく土を混ぜ、敵を作つてください。追肥は双葉時、本葉2~3枚時、本葉5~6枚時の3回とし、野菜専用化成250をそれぞれ70g、敵の肩の部分に浅い溝を切って施し、その後軽く中耕・土寄せを行ってください。

4 種まき・間引き

種は3.3m²(1坪)当たり点まで4ml、条まで7ml、種は1昼夜流水に浸し、水切りしてください。種まきは浅い溝を切り(1条)十分灌水してから条まきするか、10~12cm間隔に3~4粒点まきし、軽く覆土して鎮圧しましょう。

*ゴボウは発芽の際に光線が必要であり、覆土は厚くしない。間引きは本葉1枚時と3~4枚時の2回にする。条まきでは10~15cmの株間、点まきでは1ヶ所1本にする。

害虫では、アブラムシの被害があります。
光反射マルチや光反射テープを張ることで防除する方法もあります。

アブラムシ ジェイエース水和剤 1000倍、収穫45日前まで、1回